



令和4年8月3日

海上保安庁

「海洋環境保全推進月間」における活動結果について

～前年比2倍超の海洋環境保全教室開催など、各地で精力的な活動を展開！～

海上保安庁では、毎年5月30日（月）（ごみゼロの日）から6月30日（木）までの期間を「海洋環境保全推進月間」として定め、「未来に残そう青い海」をスローガンに、海洋環境保全に係る指導・啓発活動を全国で重点的に実施しました。

また、同期間中、「海ごみゼロウィーク」※に係る取組も併せて実施しており、地方自治体、小中学校、公益財団法人海上保安協会等と連携し、全国102か所の海岸等において、15,358人の方々と共に海浜清掃を行い、これに併せて実施した漂着ごみ分類調査、海洋環境保全教室等を通じて、海洋環境保全の意識高揚につなげるための活動を行いました。

※環境省及び公益財団法人日本財団の海洋ごみ対策に関する共同事業として、5月30日（ごみゼロの日）から6月5日（環境の日）を経て6月8日（世界海洋デー）前後の期間を「海ごみゼロウィーク」と定め、海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動を行い、その取組結果を世界へ発信していくもの。

＜海洋環境保全推進月間における活動結果＞

海洋環境保全講習会：14回（参加人数 436人）
訪 船 指 導：615隻
訪 問 指 導：244所
海洋環境保全教室：67回（参加人数 3,163人）
漂着ごみ分類調査：102回（参加人数 15,358人）
漂着ごみ回収量：約10,600袋（30リットルごみ袋換算）

＜昨年活動結果＞

14回（参加人数 427人）
754隻
196か所
29回（参加人数 1,347人）
62回（参加人数 5,216人）
約8,519袋

主な取組内容は、別紙をご確認ください。



海浜清掃活動及び漂着ごみ分類調査



訪船指導

主な取組内容

※指導・啓発活動は、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を徹底した上で実施しました。

○ 漂着ごみ分類調査

主に小中学生を対象に、海浜清掃等にて回収した漂着ごみの分類調査を通じ、身近な廃棄物や海洋プラスチックごみが海洋汚染に結びついている現状を体感してもらったほか、不法投棄防止の呼びかけ等を行いました。

○ 海洋環境保全教室

主に小中学生を対象に、年齢構成等に合わせて、環境紙芝居の上演、簡易水質検査等を織り交ぜ、海洋環境保全思想の普及を図りました。



環境紙芝居の上演



簡易水質検査

○ 海洋環境保全講習会、訪船指導等

近年、多く発生している「タンク計測」、「バルブ操作」等の作業中における取扱不注意による船舶からの油等の排出を防止するため、タンカー、漁船等を訪船し、燃料搭載時におけるバルブの開閉確認、適切なタンク計測、オーバーフロータンクの設置、スカッパの閉鎖等の排出防止措置の実施を指導したほか、海難防止の啓発を行いました。

○ 訪問指導

マリナー、釣具店、漁業協同組合等を訪問し、マリンレジャー愛好者、漁業関係者等に対して海洋環境保全啓発リーフレットの配布、不法投棄防止の呼びかけ等を行いました。

○ メディア、SNSを通じた周知活動

地域ケーブルテレビ、ラジオ番組へ出演しての広報活動や、部署で実施した取り組みを積極的にSNSに投稿することにより、多くの方々に海洋環境保全思想の普及・啓発を行いました。

○ 電光掲示板等を活用した啓発活動

水族館、スタジアム、ショッピングモール等の集客施設、空港、駅等の公共施設、多くの方々が訪れるイベント会場等において、電光掲示板、横断幕、ポスター、環境パネル等を活用して海洋環境保全思想の普及・啓発を行いました。



水族館における啓発活動



公共施設のデジタルサイネージを活用した啓発活動



駅前電子公告塔を活用した啓発活動